

『八幡神社の絵馬』

八幡町の神社に、黒く墨で塗りつぶした一枚の絵馬が掛かっている。

昔、八幡に威勢のよい、すばらしい一頭の黒馬がいた。ところが、ふとしたことから、死んでしまった。

村人たちは、たいへん惜しいことだ

と思い、八幡神社へ絵馬にして揚げた。絵馬のできぐあいも、すばらしく、まるで生きているように見え、近在の評判になった。

ところが、その年、八幡では、田畑の作物が、何者かに食い荒らされることが、度重なった。「おかしい、いったい、何者だ。」と、村人たちは、たいへん困って、よく調べた。すると、ひづめの跡が見つかった。また、馬の鳴き声を聞いたという者も現れた。

誰いうことなく、「あの絵馬の、仕業ではなかろうか。」ということになった。そこで、夜通し見張っていると、一匹の黒馬が、神社から出ていき、夜明け前に戻ってきて、神社の中に姿を隠した。「あの黒馬は、まだ、この世に、未練があるに違いない。」と、村人たちが、話し合った。そして、にんじんなど、馬の好物をお供えして、お祭りをした。絵馬から、馬が抜け出さないように、絵馬を、黒く塗りつぶしてしまった。

不思議なことに、それからは、田畑の作物は、食い荒らされることがなく、八幡では、毎年、豊作が続いたという。

（八幡町、伝承）

